

オールド・ニュータウン再生に学生の力を。入居開始から四十五年となり、県が再生事業を進めている明舞団地(神戸市垂水区、明石市)に、大学生らが運営を担い、住民との交流や調査研究を目的とする活動拠点「明舞まちなかラボ」が三十日、オープンする。
(永田憲亮)

明舞団地 入居から45年

まちなか活性化 学生と連携

人口減少や住民の高齢化が進む団地の活性化策の一つ。ラボは、商業施設「明舞センター」の明舞第一センタービル(神戸市垂水区狩口台一)にある空き店舗に入る。

兵庫県立大学経済学部(同市西区)でまちづくりを研究する野津隆志教授、加藤恵正教授らとゼミの所属学生が、県などと連携し、運営する。今後、近隣の他大学の学生を受け入れる態勢づくりも検討するとい。

交流、調査向け拠点

県立大、県など「まちなかラボ」30日オープン

オープンセレモニーは三十日午後四時半から。同センター商店会会員と学生、教授らの懇談会もある。

ラボに参画する同学部の和田真理子准教授は「大学として地域に貢献したい。学生らは現場の生きた学びにつながり意義があるはず」と説明。県住宅政策課は「まちづくりにはいろいろな主体が必要で、多世代交流を進めるためにも、学生を引き込んでいきたい」としている。